

年 頭 所 感

日 時 平成25年1月4日（金）9：00

職員の皆さん、新年明けましておめでとうございます。

皆様方には、輝かしい新春を、御家族ともども、健やかに迎えられましたことと、心よりお慶び申し上げます。

また、業務の関係で、年末年始に勤務されました職員の皆様方には、大変御苦労様でございました。

私は、今年は、石清尾八幡宮のカウントダウンイベントに参加して年越しをし、家に戻って少し仮眠をしてから5時に起きて、屋島山上初日来迎式でうす雲から覗いた初日の出を迎え、非常に清々しく明るい気分で、良い新年のスタートを切れました。

それでは、平成25年—2013年の仕事始めに当たりまして、一言、御挨拶を申し上げます。

今年の干支は、「巳年」であります。ある解説によりますと、「巳」は、再生の象徴として生物の成長の中で最高潮に達している状態を意味し、そこから新しく生まれるとも言われております。また、動物では、蛇に例えられますが、蛇は、脱皮をして成長することから、復活と成長のシンボルとも言われます。昨年、一昨年と職員による不祥事が続きましたが、私を始め、市役所職員一同、蛇が脱皮するが如く、生まれ変わった新たな気持ちで業務に臨んでいただきたいと思います。

昨年12月16日に衆議院議員総選挙が行われた結果、民主党政権が幕を閉じ、代わって自由民主党を中心とした新たな政権が誕生しました。今後、新政権においては、当面の景気回復のための経済対策はもとより、被災地復興対策、また、社会保障と税の一体改革や我々に直接関連する地方分権改革にスピード感をもって、真正面から取り組んでいただきたいと思います。

私は、今、我が国に最も必要とされているものを一言で表すとすれば、それは「持続可能性の先に灯す希望」だと思えます。我が国が、これまで経験したことのない人口減少社会、超高齢化社会が現実のものとなっています。そのような中で、政治、経済、社会、さらに環

境の分野も含めて、いかに持続可能な国づくり、まちづくりを進めていくかが最も求められています。そして、持続可能性を打ち立てた先に、希望の光を灯さなければならないと思っています。その責任が、市民に最も身近なところにある我々基礎自治体に課せられていると思います。

高松における「持続可能性の先に灯す希望」は、一つは「コンパクト・エコシティ」であり、一つは「創造都市」であり、一つは「コミュニティの復活」であり、また一つは、「地域包括ケアの実現」であります。その希望にきちっと灯が灯せるように、当面の方法を取り違えることなく、確実に実践していかなければなりません。

今年は、私が2期目の選挙の際にお示ししました「マニフェスト2011」の折り返しの年に当たります。4年間の任期の中で「高松クリエイティブ・イノベーション 創造性豊かな海園・田園・人間都市へ」をテーマとし、12のキーワードを示し、その下に60の施策を掲げているところです。

12のキーワードを今一度言っておきますと、コミュニティ、子ども子育て、教育、芸術文化スポーツ、コンパクトで美しいまちづくり、環境、保健・福祉・医療、観光、公共交通・自転車、ものづくり・産業・雇用、安全・安心、行財政改革、この12のキーワードを掲げております。ほぼすべての部局で、何らかの形で関わるキーワードがそれぞれの仕事の中にあるかと思います。是非、年の始めの早い時期に、職員の皆さん一人一人が、自分の仕事と関連するキーワードを頭に浮かべていただきながら、自分の担当する仕事と結び付け、具体的にそれぞれの仕事の目標とそれに至るより確実な方法は何か、いわば「持続可能性の先に灯す希望」を自分の中で見つけて、その中でいかにそれに到達すべきか、そして、やるべきことを頭の中でいち早く思い描いていただきたいと思います。

職員の皆さんが思い描いた方法で仕事を進めていくときに、三つの指向と三つの連帯を意識してほしい、ということ年頭に当たってお願いしておきたいと思います。

三つの指向と三つの連帯とは、50年前からいち早く日本の消費税に当たる付加価値税を導入し、社会保障と税の一体改革を進めながら経済成長を遂げてきたスウェーデンの国家戦略のことで、こういった戦略をもって国づくりを行ったから今のスウェーデンがあるんだと唱える有識者もいるようです。

まず三つの指向のうち、一つは、「独創指向」ということです。目標に対し自らの頭で

考え、他の人がやって、かつ、うまくいっているからというのではなく、自ら見つめ自ら考えて、他の人がやっていないからやってみようという思考を働かせるものであります。右肩上がりの時代は、ある程度他の人と同じことや、なおそれ以上にうまくやれば良かったのですが、これからの人口減少と超高齢化という厳しい社会環境の中では、人と同じことをやっていたのでは、どんどん取り残されてしまいます。それぞれの「まち」に合ったやり方を自分たちで考えていかなければならないというものです。

二つ目は、「未来指向」ということです。これは、将来こういう風にしたいというものをしっかり見据えていただきたい、というものです。それを実現するために今何をしなければいけないかということをも自分の中でしっかり考えていただきたいと思います。

三つ目は、「世界指向」ということです。市役所の仕事は対市民ということで、それぞれ地域に向けた仕事であります。仕事を行うに当たって視野を常に広く世界を見つめていただきたい、というものです。先ほど申しあげました前例のない社会情勢の中にあるので、日本の国だけ見ていたのではとても問題に対する良い解決策は生まれて来ないことから、世界指向を常に頭の中に心がけてほしいと思います。

併せて、三つの連帯であります。一つは「男女間連帯」で、人口減少や超高齢化社会が現実のものとなると、女性の社会進出が絶対条件となります。常に男女共同参画を頭においていただきたい、というものです。

次に、「世代間連帯」では、若い人の活力をもっと引き出すこと、あるいは元気のある高齢者に支えられる人から支える人になってもらうなど、全世代を通じた福祉という考え方の下に、「世代間連携」を意識してもらいたい、というものです。

三つ目は、「地域間連帯」で、地域コミュニティ同士の相互の連携あるいは市町を越えた広域行政という意味で定住自立圏の枠組を中心として水平的な補完体制を重視するなど、「地域間連帯」を意識していただきたいと思います。

「独創指向」・「未来指向」・「世界指向」の三つの指向と、「男女間連帯」・「世代間連帯」・「地域間連帯」の三つの連帯を意識して、今年一年仕事に当たっていただきたいと思います。人口減少、超高齢化社会ということをも、マイナスに捉えるのではなく、活力を失わずに希望を持って次の世代にこのまちを引き継いでいくために、この三つの指向と三つの連帯を常に心がけて仕事に当たっていただきたいと思います。そうすることにより、まさ

に私がマニフェストに掲げたクリエイティブ・イノベーション，日本語で巳年にちなんで言えば，創造的脱皮が図られるものと確信をいたしております。

いよいよ3月20日から「瀬戸内国際芸術祭2013」が始まります。また夏には，2年に1回行われる「フルーツの祭典」である「日本フルーツコンヴェンション」がフルーツ王国香川で開催されます。これまで大都市で開催されてきたものが，初めて高松のような地方都市で開催されるイベントで，市としても盛り上げていきたいと思っています。

本市には，667年に天智天皇が築いたと日本書紀に記されている屋嶋城（やしまのき）がありますが，10月4日・5日には「古代山城サミット」ということで，全国にある朝鮮式山城や神籠石（こうごいし）山城が存する市町村の代表が集まって第4回目のサミットが開催されます。

また，10月14日には第2回目の「現代源平屋島合戦絵巻」の本番が「瀬戸内国際芸術祭2013」に合わせて開催されます。

大きなイベントを成功に導きながら，弾みをつけて創造的脱皮，クリエイティブ・イノベーションを図っていきたいと考えております。

終わりになりますが，今年一年が，高松市にとりまして，また，職員皆様方にとりまして輝かしき良き一年になりますことを心から祈念申しあげまして，私の年頭の挨拶といたします。

本年も，どうぞよろしく願いいたします。